

ジェンダー関連科目紹介

青山学院大学で開講されている科目の中から、ジェンダーを学びの柱としている科目の一部をパネルで紹介します。

パネルPDFは、ジェンダー研究センターのウェブサイト＜教育事業＞に掲載しています。

ジェンダー関連科目紹介展2025 紹介科目一覧

開講学部・学科	科目名	開講 キャンパス	学期	※	担当者
文学部英米文学科	アメリカ文化特講Ⅰ(1)／アメリカ文化特講Ⅰ(2) アメリカ文化特講Ⅱ(1)／アメリカ文化特講Ⅰ(2) (英語講義)	青山	前期／通年 後期／通年		Mary. A. Nighton
文学部英米文学科	アメリカ文学演習Ⅰ(1)／アメリカ文学演習(1) アメリカ文学演習Ⅱ(1)／アメリカ文学演習(1) (英語講義)	青山	前期／通年	※	Mary. A. Nighton
文学部英米文学科	アメリカ文化演習Ⅰ(1)／アメリカ文化演習(1)	青山	前期／通年	※	西本あづさ
文学部日本文学科	日本文学特講Ⅰ[1] 日本文学特講Ⅱ[1]	青山	前期		小松 靖彦
		青山	後期		
文学部史学科	西洋史特講(5)	青山	前期		畠山 禎
文学部史学科	西洋史特講(6)	青山	後期		畠山 禎
文学部史学科	史学特講B(5)	青山	前期		中込 さやか
教育人間科学部教育学科	ジェンダーと教育	青山	後期		石黒 万里子
経済学部	英語で学ぶ社会・人文学講義B／英語圏の言葉と文化	青山	後期	※	佐竹 由帆
法学部	ジェンダーと人権／人権法特論E	青山	後期		谷口 洋幸
法学部	性的マイノリティと人権／人権法特論G	青山	前期		谷口 洋幸
法学部	ヒューマンライツ特論B	青山	後期		谷口 洋幸
地球社会共生学部	ジェンダーの社会学(英語講義)	相模原	前期	※	菅野 美佐子
コミュニティ人間科学部	女性社会活動論	相模原	後期		小林 瑞乃
コミュニティ人間科学部	女性と社会運動	相模原	前期		永井 健夫
コミュニティ人間科学部	女性と政治参加	相模原	前期		梅垣 千尋
コミュニティ人間科学部	女性と記録・表現	相模原	後期		辻 吉祥
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学特論E	相模原	前期		梅垣 千尋
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学特論F	相模原	前期		後藤千織
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学特論G	相模原	後期		永井 健夫
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学特論P	相模原	前期		小林 瑞乃
青山スタンダード科目	歴史と人間(個別科目)	相模原	前期		小林 瑞乃
青山スタンダード科目	自己理解(個別科目)	相模原	前期		西山 利佳
青山スタンダード科目	いのち・女性・社会	青山	後期		西山 利佳
青山スタンダード科目	現代社会の諸問題(個別科目)(英語講義)	青山	後期		COOP, Stephanie L.
青山スタンダード科目	歴史と人間(総合科目)	相模原	前期		輪島 達郎 小林 瑞乃 山田 美穂子
青山スタンダード科目	聖書の中の女性たち(旧約)	相模原	前期		福嶋 裕子
	聖書の中の女性たち(新約)	青山	後期		
青山スタンダード科目	ジェンダーとフェミニズムA／フェミニズムA	青山	前期		西山 千恵子
	ジェンダーとフェミニズムB／フェミニズムB	青山	後期		

※他学部が開講されていないので注意してください

ジェンダー関連科目紹介展2025

会期:2025 年4 月1 日(火)～16 日(水)・2025 年9 月19 日(金)～10 月1 日(水)

時間:月～土 9:00～18:00

会場:ジェンダー研究センターギャラリー／青山キャンパス・スクーンメーカー記念館(旧女子短期大学図書館)

科目名：「アメリカ文化特講Ⅰ(1)／アメリカ文化特講(1)(英語講義)」
「アメリカ文化特講Ⅱ(1)／アメリカ文化特講(1)(英語講義)」

■ 講義概要 Course description

This course aims to survey the long history of lower-class whites in American society and culture, from colonial times to the present by reading and discussing historian Nancy Isenberg’s eye-opening *White Trash: The 400-Year Untold Story of Class in America* (2017). Doing so will allow us to confront persistent origin myths about the nation, to grasp what class and gender means and looks like overall, and finally, to ask how class resentments and class identity continue to shape American life today.

In general, we will read and explore together six chapters each term from Isenberg’s book and supplement this history with fiction, essays, and poetry. We will pay special attention to William Faulkner’s Snopes clan as representative of the stereotypes, fears, and prejudices against the rural and lower classes, in particular. We want to ask why class is both omnipresent in the form of status and money, poverty and disenfranchisement, and yet invisible in a capitalist society that believes in social mobility. Such a society refuses to “see” class as fixed or systemic, and instead celebrates “bootstrapping,” or the ways in which individuals overcome hurdles to succeed. At times in this course, we may turn to Isabel Wilkerson’s notion of “caste” to understand her arguments that America does not have a class system so much as a society based on caste.

Summer and Winter terms

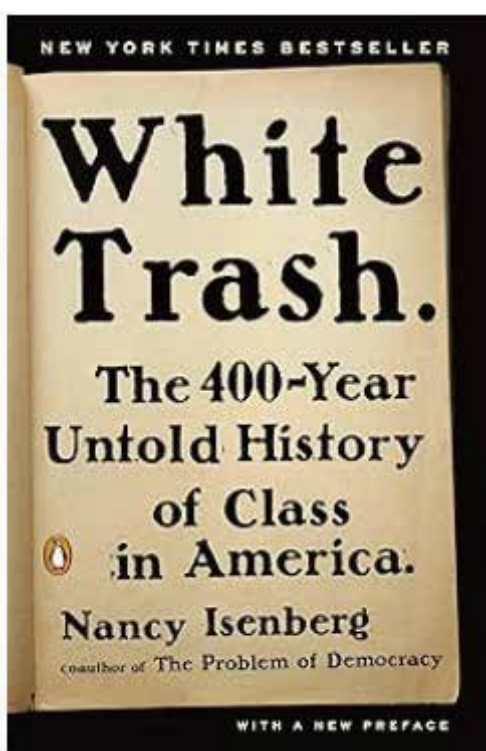
In each semester, we will pay special attention to celebrated writers of the U.S. South such as Faulkner, O’Connor, Welty, McCullers, Wright, and others in their representations of stereotypes, fears, and prejudices held by, and against, the rural and lower classes, in particular. We look at J.D. Vance’s autobiography, and consider how and why the so-called “Trump era” has emerged, and what it might have to do with class in America.

■ 達成目標 Course objectives

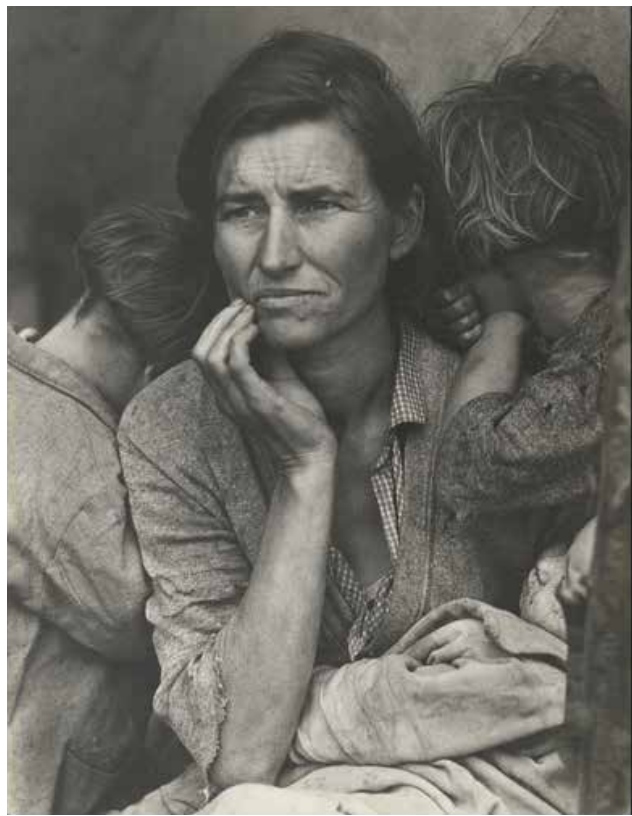
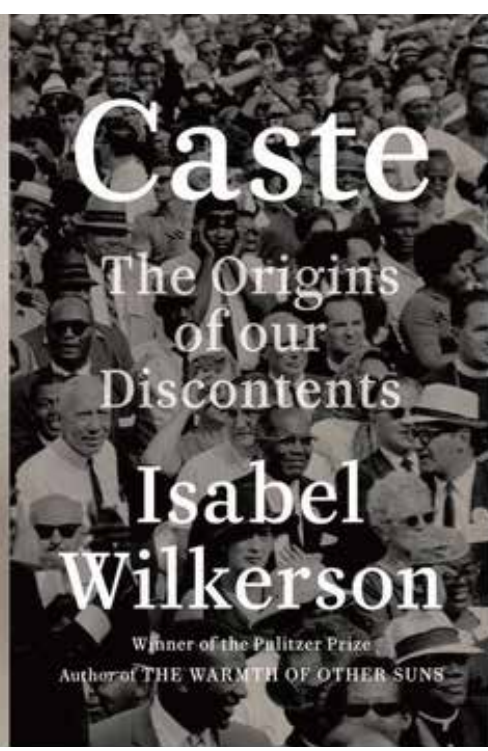
- ((1) To read extensively and intensively (widely and deeply) in modern American literature
- (2) To learn about techniques of narrative experimentation in American literature
- (3) To compare and contrast universal and both gender-and race-specific approaches to history, art, and culture modeled in critical essays by literature and culture scholars as well as public intellectuals
- (4) To present organized talks orally in English on assigned topics
- (5) To write argumentative and interpretative essays in English, building from a thesis paragraph by paragraph, based on research with bibliography and notes



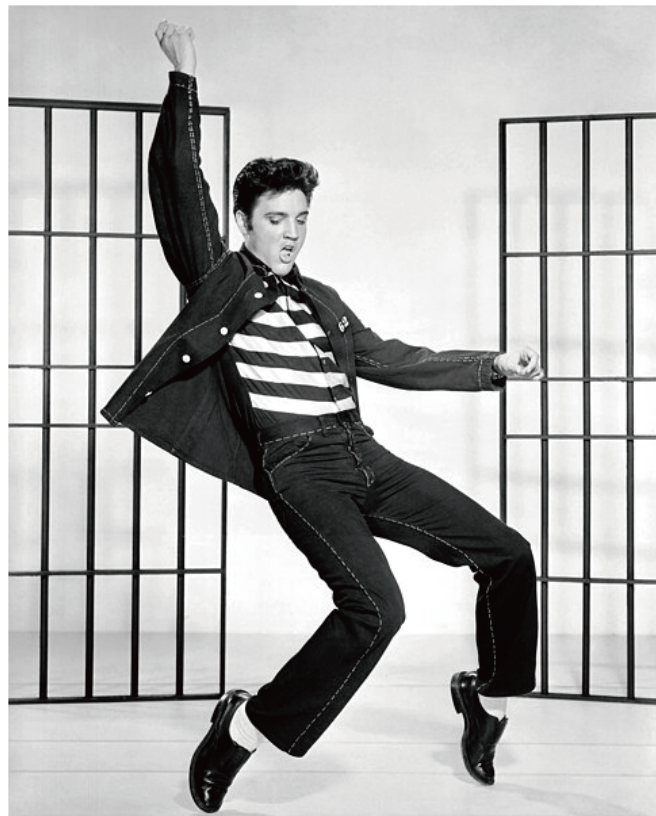
Nancy Isenberg



Isabel Wilkerson



Dorothea Lange
Migrant Mother, Nipomo, California
March 1936



Elvis Presley in Jailhouse Rock, 1957



担当者：Mary A. KNIGHTON (メアリー・A. ナイトン)

外国の文化や言語でジェンダーや社会問題について喋る・読む・書く・考えることに関心を抱き憧れていながら、それを怖くて難しいと思う人は少なくないでしょう。場合によっては、過去に辛い経験をしたことのある人もいるかもしれません。この特講では、学生がより強くより自信を持てるように、異文化共有と意見交換の場を作っていきたいと考えています。女性・性・ジェンダーは、人種・民権・社会階級・文化などに交差する概念でありながら、生きている今のリアリティに切迫した問題とも言えます。英語圏の文化や文学を通してどのようにジェンダー表象を分析できるか、一緒に探りながら挑戦してみませんか。

■ プロフィール

アメリカのバージニア州出身、カリフォルニア州立大学バークレー校でアメリカ近現代文学と日本文学に関連する研究で修士と博士の学位を取得。何十年も日本に滞在し、日本文学、特に女性作家を中心に研究。大学時代以来ジェンダーの自由と女性運動を人権運動から切り離せないと考え、多くの論文や発表で、専門分野の文学を通じてこれらのテーマに取り組んできた。



科目名：「アメリカ文学演習Ⅰ(1)／アメリカ文学演習（1）(英語講義)」
「アメリカ文学演習Ⅱ(1)／アメリカ文学演習（1）(英語講義)」

※他学部・他学科には開講されていないので注意してください

■ 講義概要 Course description

Over the course of this year in two semesters, our readings in Knighton Zemi will focus on American women writers of the U.S. South. We will consider how geography and gender shape white and black women’s relationship to their writing, be it in the form of diaries, essays, poems, plays, short or long fiction. Regional history, social and economic hierarchies, sexuality, skin color and racial caste exert particular pressures on women seeking to express themselves in the U.S. South.

In this course, we will adopt Kimberlé Crenshaw’s concept of “intersectionality,” the ways in which personhood is defined according to multiple overlapping and intersecting vectors such as race, class, and gender. We will add geographical region to that intersectional mix, and ask what is universal about women’s particular experiences, and how can we think about difference as a critical method and not simply as a property of identity or the subject of literary expression alone. We will take up women writers from the 19th century and contemporary critical theorists and essayists, but focus mostly on short fiction of the 20th and 21st centuries, including Harriet Jacobs, the Grimké sisters, Mary Chestnut, Mary Noailles Murfree, Zora Neale Hurston, Kate Chopin, Alice Walker, Sonia Sanchez, bell hooks, Flannery O’Connor, Eudora Welty, Bobbie Ann Mason, Molly McCully Brown, Doris Betts, and Nikki Giovanni, among others.

Summer term

In this semester, depending on student interest and numbers, we will also read one or two longer works of fiction such as Carson McCullers’ *Reflections in a Golden Eye* (1941) and/or *The Member of the Wedding* (1946) .

Winter term

In this semester, depending on student interest and numbers, we will also read one or two longer works of fiction such as Dorothy Allison’s *Bastard out of Carolina* (1992) and/or Jesmyn Ward’s *Salvage the Bones* (2011) .

■ 達成目標 Course objectives

The class has three main objectives:

- (1) To gain foundational knowledge of techniques of narrative fiction and examine it in its social and historical context;
- (2) To improve reading, writing, speaking, and listening skills as a result of intensive study of materials solely in the target language of English;
- (3) To foster critical thinking and writing skills through rigorous debate and discussion, comparative analysis of texts, close reading of language use, and short writing tasks.



Zora Neale Hurston



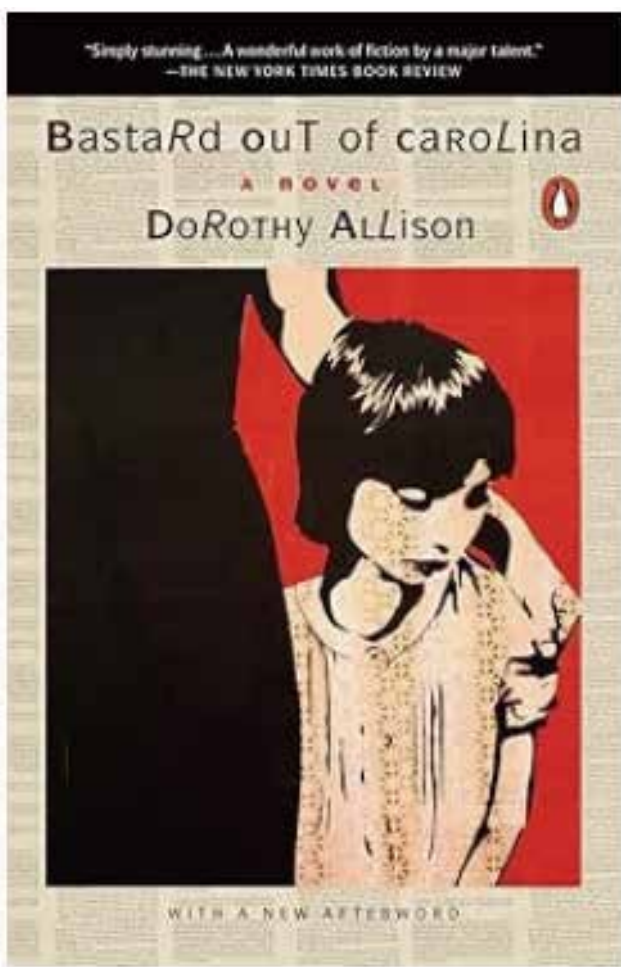
Carson McCullers



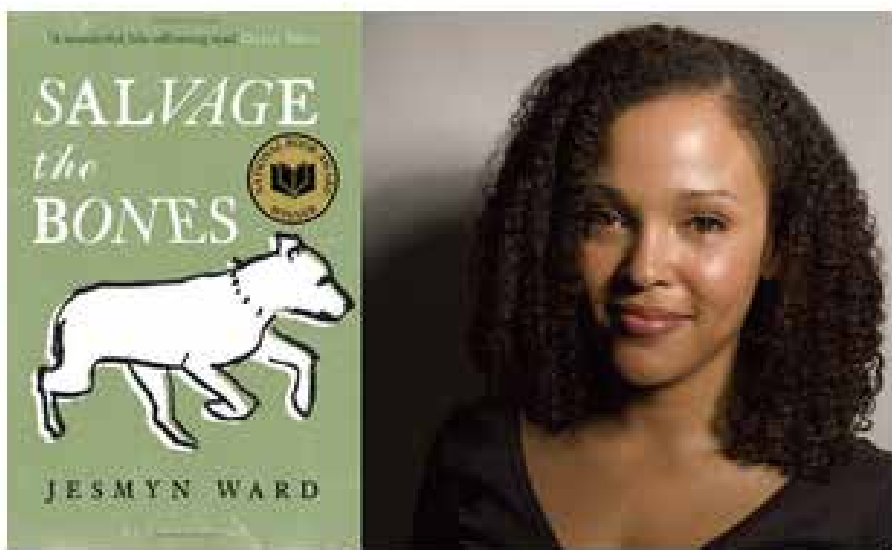
Flannery O'Connor



Mary Chestnut “A DIARY FROM DIXIE”



Dorothy Allison “Bastard out of Carolina”



Jesmyn Ward “Salvage the Bones”

担当者：Mary A. KNIGHTON（メアリー・A. ナイトン）

外国の文化や言語でジェンダーや社会問題について喋る・読む・書く・考えることに関心を抱き憧れていながら、それを怖くて難しいと思う人は少なくないでしょう。場合によっては、過去に辛い経験をしたことのある人もいるかもしれません。この演習では、学生がより強くより自信を持てるように、異文化共有と意見交換の場を作っていきたいと考えています。女性・性・ジェンダーは、人種・民権・社会階級・文化などに交差する概念でありながら、生きている今のリアリティに切迫した問題とも言えます。英語圏の文化や文学を通してどのようにジェンダー表象を分析できるか、一緒に探りながら挑戦してみませんか。

■ プロフィール

アメリカのバージニア州出身、カリフォルニア州立大学バークレー校でアメリカ近現代文学と日本文学に関連する研究で修士と博士の学位を取得。何十年も日本に滞在し、日本文学、特に女性作家を中心に研究。大学時代以来ジェンダーの自由と女性運動を人権運動から切り離せないと考え、多くの論文や発表で、専門分野の文学を通じてこれらのテーマに取り組んできた。



科目名：「アメリカ文化演習Ⅰ(1)／アメリカ文化演習(1)」

※他学部・他学科には開講されていないので注意してください

■ 講義概要

歴史が交差する身体を生きる——Nella Larsen と Danzy Senna を読む

世界では、歴史／過去に根を持つ分断が今も尾を引き、さまざまなレベルで、他者への不寛容や痛ましい衝突へとつながる出来事が、跡を絶ちません。さらに、未曾有のパンデミックを経験した今、否応なく閉じた世界で、私たちは、他者となつたり他者を想像することがきわめて必要で、かつ難しいということを実感しています。多様性を抱えた世界で異なるものが共に生きること、あるいは、多様性を内に抱えた自己を生きること、とは一体どんなことなのでしょう——この授業では、そんな容易に答えの出ない問題を念頭におきつつ、複数の民族的／人種的バックグラウンドを持つ二人の作家 Nella Larsen (1891-1964) と Danzy Senna (1970-) による「アイデンティティ」や「帰属」をめぐるナラティヴを精読していきます。

920 年代のニューヨークのハーレムを中心に展開されたアフリカ系アメリカ人最初の文化・芸術運動を、Harlem Renaissance または New Negro Renaissance と呼んでいます。前期の〔Ⅰ〕では、その時期に短いながら創作活動をした Nella Larsen を中心に取り上げ、彼女の第一作 *Quicksand* (1928) を精読します。奴隷制度や人種差別の歴史を持つ合衆国では長年にわたり異人種混交がタブー視されてきましたが、Larsen は 19 世紀末のシカゴで、カリブ海地域から移民してきたデンマーク系白人の母と黒人の父の間に生まれました。人種で分断された当時のアメリカ社会の規範から外れた出自と身体を持ち、既存の社会の中に帰属できる場所や文化を見出せなかった Larsen は、混血女性の複雑なアイデンティティとセクシュアリティを探究する自伝的要素の強い作品を残しました。彼女が描くヒロインたちのハイブリッドな存在の在り方や自由や幸福を求め移動する生き様には、21 世紀を生きる私たちが抱える問題と驚くほど多くの共通点が見出されます。

授業は学生主体のグループ発表とディスカッションを中心に進めます。一年を通じて共通するテーマについての議論を重ねていきますので、特別な理由がない限り、ⅠとⅡを継続して受講してください。

■ 達成目標

アメリカ合衆国の歴史、文化とアフリカ系アメリカ文学についての知識と理解を深める

アメリカ合衆国における人種とアイデンティティの問題について理解と考察を深める

作家の個性ある文体を、歴史的、文化的、社会的背景を調査した上で、正確に深く読み解き分析する力をつける

担当者：西本 あづさ (にしもと あづさ)

グレナダからの移民2世でレズビアン of 詩人オードリ・ロードは「詩とは名前のないものに名前を与え、それについて考えることができるよう助けてくれるものだ」と書きました。黒人女性として初のノーベル文学賞を受賞したトニ・モリスンは「語りが生みだされている瞬間、語り手であるわたしたち自身も造りかえられている」と語りました。彼女たちの創作の原点には、ジェンダー、人種／エスニシティ、セクシュアリティ、階級、年齢、ディサビリティ等々による不平等が交差する世界で周縁に位置づけられ抑圧されてきた「わたし／わたしたち」の物語をつむぐコトバを創りだし、それによって世界と「わたし／わたしたち」について考え、いまはまだ存在しない両者の関係を想像／創造しようとする意志があるように思えます。授業では、沈黙を破って語り出される黒人女性たちのコトバを注意深く読み解き、それに応答する過程で学生のみなさんにそれぞれのコトバを見つけてほしいと願い、テキストの精読とクラスでのディスカッションに力を入れています。

■ プロフィール

大学院に入る少し前、当時出版されたばかりだった Toni Morrison, *Beloved* (1987) を読んで衝撃を受け、アフリカ系アメリカ文学を研究しようと心に決めました。文学部教授。専門はアメリカ文学、アフリカ系アメリカ文学・文化研究。母校の英米文学科で教壇に立つようになって四半世紀になります。

科目名：「日本文学特講Ⅰ〔1〕」

■ 講義概要 Course description

『萬葉集』を通してジェンダーを考える

現代社会では、ジェンダー多様性が知られ、また認められるようになってきています。ジェンダーは人類の大きな特徴の一つと言えます。

日本の古代社会では、ジェンダーはどのようになっていたのでしょうか。7、8世紀の「やまと歌」を集めた『萬葉集』の相聞歌では、男性・女性の性差が必ずしも明確ではありません。それは、『萬葉集』の時代には、男女の社会的・経済的地位の差が大きいことや、婚姻も母系的要素が強く、本人同士の合意による〈対偶婚〉がベースであったことによります。しかし、『萬葉集』の時代の政府は、「律令国家」建設のため、中国の父系的な社会制度も採り入れました。そのため、相聞歌には〈待つ女〉という類型など、父系的な要素が見られ始めています。

この講義では、『萬葉集』を手がかりに、日本古代社会におけるジェンダーを考えます。それは、現代日本のジェンダーを考えるための鏡となることと思います。

■ 達成目標 Course objectives

1. 『萬葉集』についての基本的知識と「やまと歌」を読み解く力を習得する。
2. ジェンダーについての基本的知識を身に付ける。
3. 『萬葉集』という古典から、現代社会の課題を捉え直すという視点を養う。

担当者：小松 靖彦（こまつ やすひこ）

この授業では、日本最古の歌集『萬葉集』を通じてジェンダーを考えます。『萬葉集』の歌が作られた7、8世紀は、日本の古代社会が母系的なものから父系的なものへと転換してゆく時代でした。『萬葉集』の恋歌には、父系的なものと母系的なものが混在しており、私たちが抱く〈男性性〉／〈女性性〉の常識を大きく揺り動かします。また、戦争の時代に『萬葉集』は、政府と軍によって戦意高揚のために利用されました。『萬葉集』が“男性的な歌集”と考えられていたからです（実際にはそうではありません）。世界では戦争が続いている今日、戦争というものが生み出す「性役割」について皆さんと一緒に考えたいと思っています。

■ プロフィール

文学部日本文学科教授。専門は、日本文学。特に、日本古代文学（『萬葉集』）、書物学、文学交流、戦争文学など。著書に『戦争下の文学者たち—『萬葉集』と生きた歌人・詩人・小説家』（花鳥社）など。近年は、文学交流の研究や、海外の研究者との交流に力を入れている。ジェンダーもそのテーマ。
<https://manyogakushi122.wixsite.com/mysite>



科目名：「日本文学特講Ⅱ〔1〕」

■ 講義概要 Course description

戦争下の『萬葉集』受容を通してジェンダーを考える

日中戦争・太平洋戦争下、最も広く受容された古典は、『萬葉集』です。政府と軍は、『萬葉集』の歌の〈男性的強さ〉を強調し、「国民」の戦意を高めました。「国民」も「好戦」の表現として『萬葉集』を受け入れました。また、『萬葉集』の女性歌人たちの〈待つ女〉の歌も広く受容されました。政府も軍も、嘆きに満ちた〈待つ女〉の歌を禁じることはありませんでした。このように、『萬葉集』は、戦争を遂行するための〈性役割〉を示すものとして利用されたのでした。

ただし、戦争下に、近代日本では男性よりも低い地位に置かれていた女性たちにとって、〈男性的〉な『萬葉集』を受容することが、男性と肩を並べる機会となっていたという面もあります。

また、近代国民国家は、“〈公〉に対する〈私〉”というものを誕生させました。戦争下では、強大な〈公〉によって〈私〉が抑圧されます。それゆえ、〈私〉のように見える、心の表現も、実は、〈公〉的な集団性を帯びる、ということが起こっています。

この講義では、こうした〈公〉と〈私〉の関係にも注意を払いながら、戦争下の『萬葉集』受容を通して、ジェンダーとは何かを考えます。

■ 達成目標 Course objectives

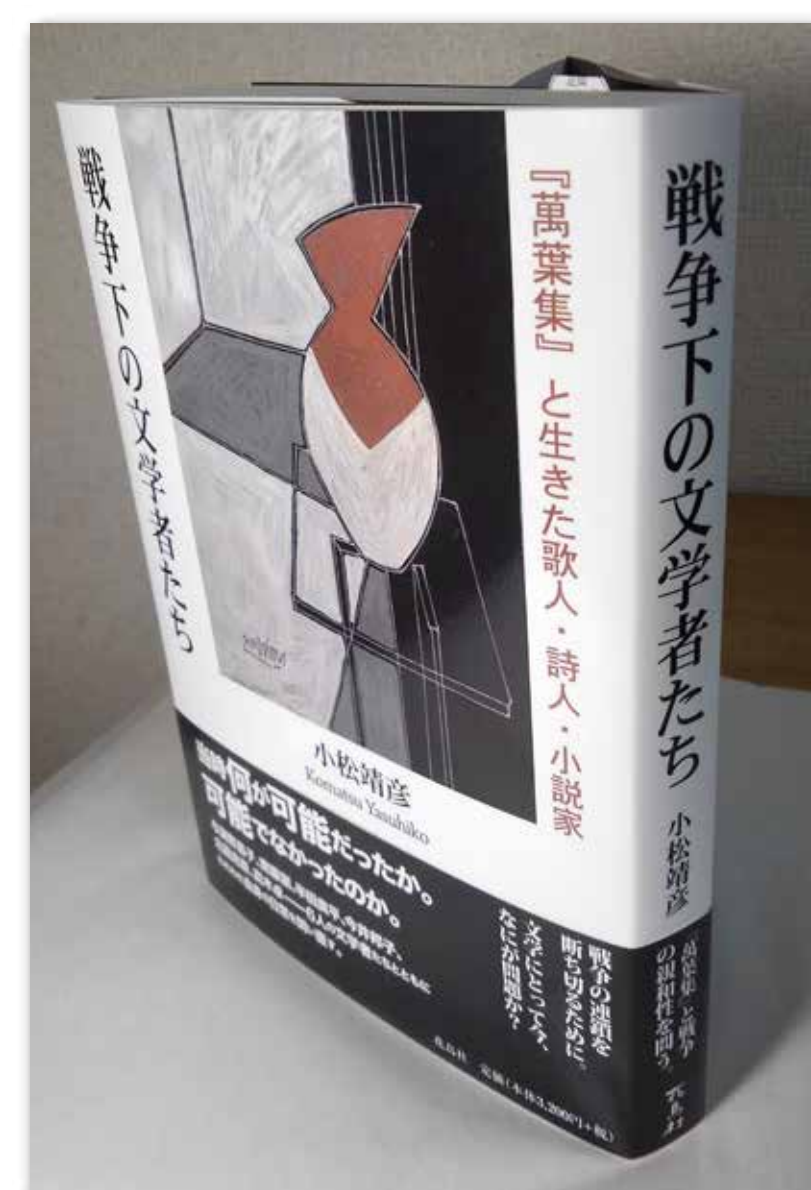
1. 戦争下の『萬葉集』受容についての基本的知識を得る。
2. ジェンダーについての基本的知識を身に付ける。
3. 『萬葉集』を通して、戦争とジェンダーについて考える視点を養う

担当者：小松 靖彦（こまつ やすひこ）

この授業では、日本最古の歌集『萬葉集』を通じてジェンダーを考えます。『萬葉集』の歌が作られた7、8世紀は、日本の古代社会が母系的なものから父系的なものへと転換してゆく時代でした。『萬葉集』の恋歌には、父系的なものと母系的なものが混在しており、私たちが抱く〈男性性〉／〈女性性〉の常識を大きく揺り動かします。また、戦争の時代に『萬葉集』は、政府と軍によって戦意高揚のために利用されました。『萬葉集』が“男性的な歌集”と考えられていたからです（実際にはそうではありません）。世界では戦争が続いている今日、戦争というものが生み出す「性役割」について皆さんと一緒に考えたいと思っています。

■ プロフィール

文学部日本文学科教授。専門は、日本文学。特に、日本古代文学（『萬葉集』）、書物学、文学交流、戦争文学など。著書に『戦争下の文学者たち—『萬葉集』と生きた歌人・詩人・小説家』（花鳥社）など。近年は、文学交流の研究や、海外の研究者との交流に力を入れている。ジェンダーもそのテーマ。
<https://manyogakushi122.wixsite.com/mysite>



科目名：「西洋史特講（5）」

■ 講義概要

【講義テーマ：帝政ロシアにおける女性・ジェンダー】

本講義では、女性・ジェンダーに焦点を当てて、16 世紀から 19 世紀前半までのロシアの歴史を概観します。まず、女性史・ジェンダー史研究の問題関心や方法を説明し、帝政ロシア女性史・ジェンダー史の研究動向を紹介します。つづいて、モスクワ大公国が周辺諸国を征服して台頭してから、その後継国家であるロシア帝国がヨーロッパの大国としての地位を確立するまでの期間について、専制政治体制がどのような「男らしさ」や「女らしさ」を喧伝し男性支配の権力関係を構築しようとしたのか、そのもとで女性にどのような権利が認められたのか、女性はどうような生き方を模索したのか、具体的に論じていきます。なお、この授業の内容は「西洋史特講（6）」と連続しますが、この授業のみの履修もできます。

■ 達成目標

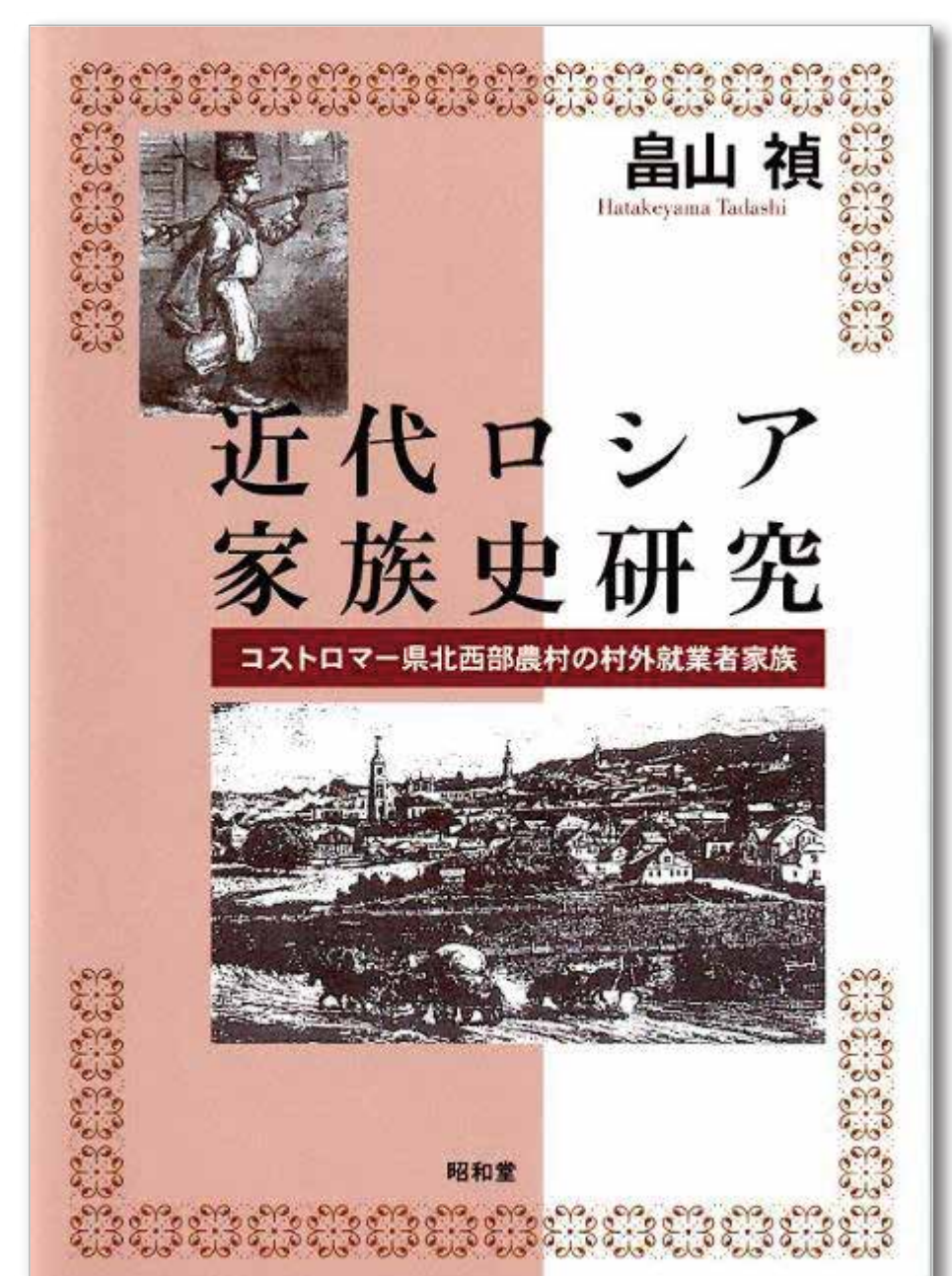
- 帝政ロシアに関する女性史・ジェンダー史研究において、現在、どのような問題に関心が集まっているのか理解する。
- 専制政治体制と女性・ジェンダーとの関係性について理解する。
- 論点を見つけて自分なりに考察し、その結果を分かりやすい文章で表現することができる。

担当者：**畠山 禎**（はたけやま ただし）

この授業では、ジェンダーや社会・家族といった身近なテーマを取り上げて、ロシアの歴史を多面的に考察していきます。ヨーロッパとアジアに跨る多民族国家ロシアの歴史は独特で、大変興味深い研究対象です。ロシアの歴史を学ぶことは、現代ロシアの政治・社会を深く理解するためにも重要です。これまでロシアにあまり関心がなかった人も、気軽に受講してみてください。みなさんから新鮮な意見が聞けることを楽しみにしています。

■ プロフィール

帝政末期ロシアの社会経済、人の移動と家族について研究し、その成果を『近代ロシア家族史研究』（2012 年）にまとめた。現在のテーマは、帝政ロシアの教育とジェンダー。北里大学一般教育部教授



科目名：「西洋史特講（6）」

■ 講義概要

【講義テーマ：近現代ロシア女性史・ジェンダー史】

本講義では前期授業に引き続き、女性・ジェンダーに焦点を当てて、19世紀後半から20世紀初頭までのロシア・ソ連の歴史を概観します。クリミア戦争敗北後、ロシア帝国は農奴解放や地方自治などの一連の改革に着手し、それにともない社会や女性・ジェンダーのあり方も大きく変容していきます。近年の研究では、ロシア革命期に女性が参政権を獲得できた背景として、帝政期の女性が財産権などの諸権利や教育機会を得ていたことが指摘されています。そのような議論をふまえ、女性がどのような生き方を模索したのか、権利の獲得をめざしてどのような活動をしたのか検証していきます。なお、この授業の内容は「西洋史特講（5）」と連続しますが、この授業のみの履修もできます。

■ 達成目標

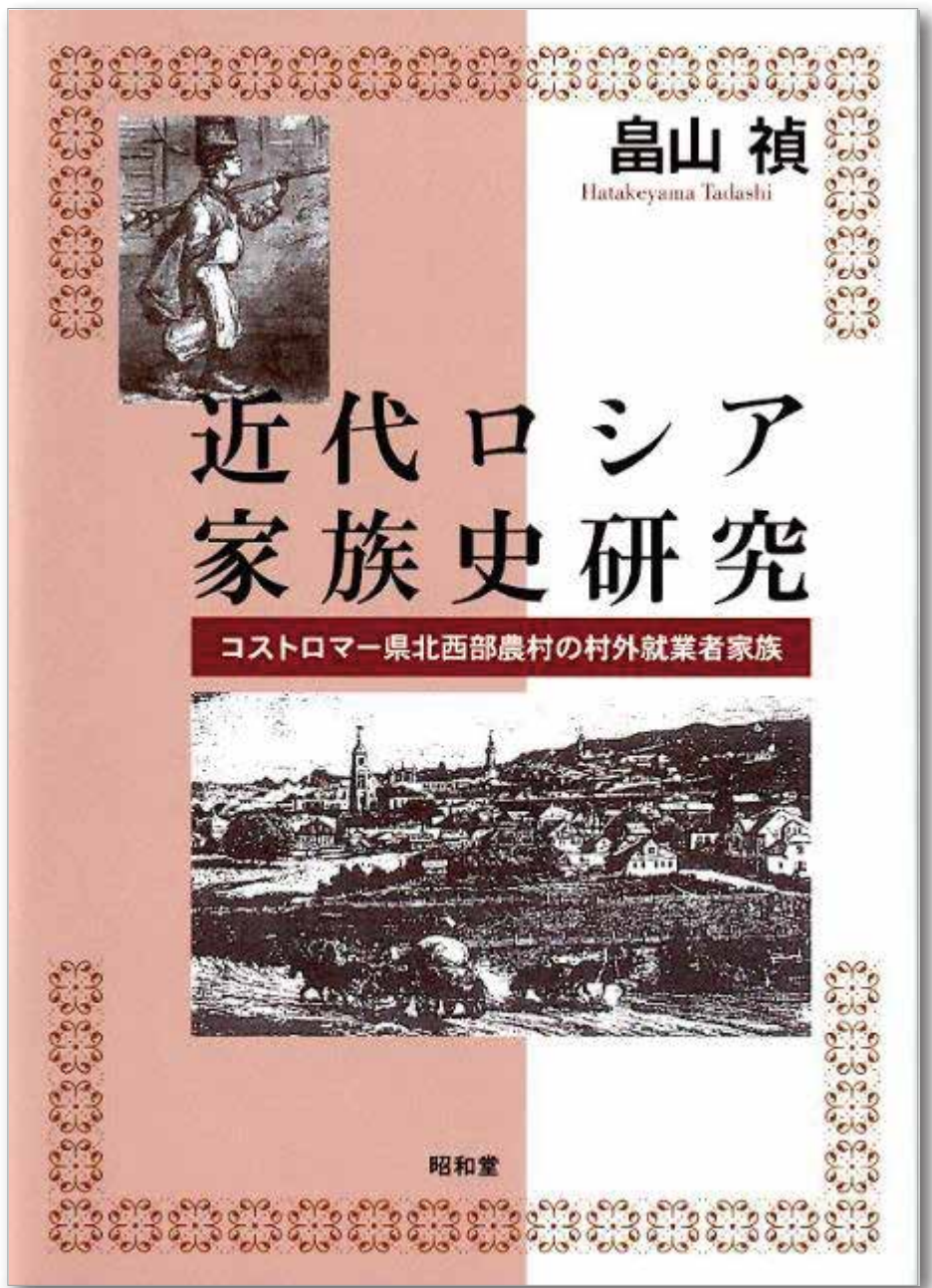
- 帝政ロシア・ソ連に関する女性史・ジェンダー史研究において、現在、どのような問題に関心が集まっているのか理解する。
- 専制政治体制や社会主義体制と女性・ジェンダーとの関係性について理解する。
- 論点を見つけて自分なりに考察し、その結果を分かりやすい文章で表現することができる。

担当者：**畠山 禎**（はたけやま ただし）

現在のロシアでは女性の就業率が高く、医師や教師といった職業で女性比率が高いです。では、そのような女性の社会進出はなぜ実現したのか、どのような歴史的な背景があったのか。さまざまな国や地域の女性・ジェンダー史を学び、それらを比較したり関係性を検討したりすることで、新しい知見が得られるはずです。

■ プロフィール

帝政末期ロシアの社会経済、人の移動と家族について研究し、その成果を『近代ロシア家族史研究』（2012年）にまとめた。現在のテーマは、帝政ロシアの教育とジェンダー。北里大学一般教育部教授



科目名：「史学特講 B（5）」

■ 講義概要

本授業では、近代イギリスの歴史、特に社会とジェンダーに関わるテーマを扱う。現在の我々がイメージする「イギリス」像には、19 世紀から 20 世紀初頭にかけてみられた特徴が多く残っている。また、世界有数の大国であったイギリスは、「近代化」の過程で日本を含む広い地域に影響を与えた。近代イギリスの社会とジェンダーを学ぶことで、現代イギリスや現代日本の社会とジェンダーも併せて考えてみたい。

配布物やPPTは、日本語と英語の資料を含む予定である。

■ 達成目標

【知識・理解】

近代イギリスの歴史、特にジェンダーに関わる部分がいかに歴史的に構築されてきたかを学ぶことで、現在のイギリスや世界のあり方をより良く理解できるようになる。

【関心・意欲・態度】

現在の世界が歴史的に「創られてきたこと」、「変化してきたこと」を理解することで、歴史的な視点を持つてほしい。また、日本とイギリスの歴史を比較することで、国際化社会・多文化社会に相応しい相対的な視点を獲得してほしい。

【技術・表現】

授業で扱う専門書の内容を正確に理解し、多様な画像・図像を分析し、それらを論理的にまとめる能力を身につける。

担当者：中込 さやか（なかごみ さやか）

ここ数年、現代社会におけるジェンダー問題に関心を持つ学生が増えているのを感じます。

私たちが生きている現代社会は、そこにいたるまでの過去の様々な出来事によって形づくられています。過去から現代まで物事がどのように変化したのか／しなかったのかを知ることで、現代社会についてより正確に理解し、より長いスパンで未来についても考えることができます。

この授業では 100 ～ 150 年ほど前のイギリスのジェンダーに関連するトピックを中心として扱いますが、現代日本にも通じる普遍的なテーマがきっと見つかるかと思います。

授業を通じて、一緒に学び、一緒に考えていきましょう。

■ プロフィール

大学時代にジェンダー平等や「フェミニズム」への関心を持ち始め、近現代イギリス女子教育史について研究を始める。現在は、日英間のトランスナショナルな女子教育活動についても関心を持っている。立教大学 GLAP 運営センターに所属。

科目名：「ジェンダーと教育」

■ 講義概要

ジェンダーと教育に関するテーマについて、学校内のできごとをはじめ、メディアやスポーツなどの社会教育、家庭教育を含めて多角的に扱います。受講生による発表やディスカッションへの積極的な参加を求めます。

■ 達成目標

- 現代社会におけるジェンダーに関わる諸課題に気づく。
- ジェンダーに関わる課題について、他者の意見を知る。
- 教育を通してジェンダーにまつわる課題にどのように取り組むか、自ら考え表明する。

担当者：石黒 万里子 (いしぐろ まりこ)

現状を変革するのも、維持(再生産)するのも教育です。教育によってジェンダー平等やジェンダー公正の実現が促進される可能性もありますが、ジェンダーステレオタイプを構築し続けているのも教育です。ジェンダーという、私たちの身体的な違いに（あえて）意味を与えて強調するような知識や価値観（スコット）は、家族や学校、社会による教育を通して伝達されるからです。この授業では、教育のそうした様々な側面を念頭に、ジェンダーと教育とがどのようにかかわるのかを、事例を踏まえて検討します。

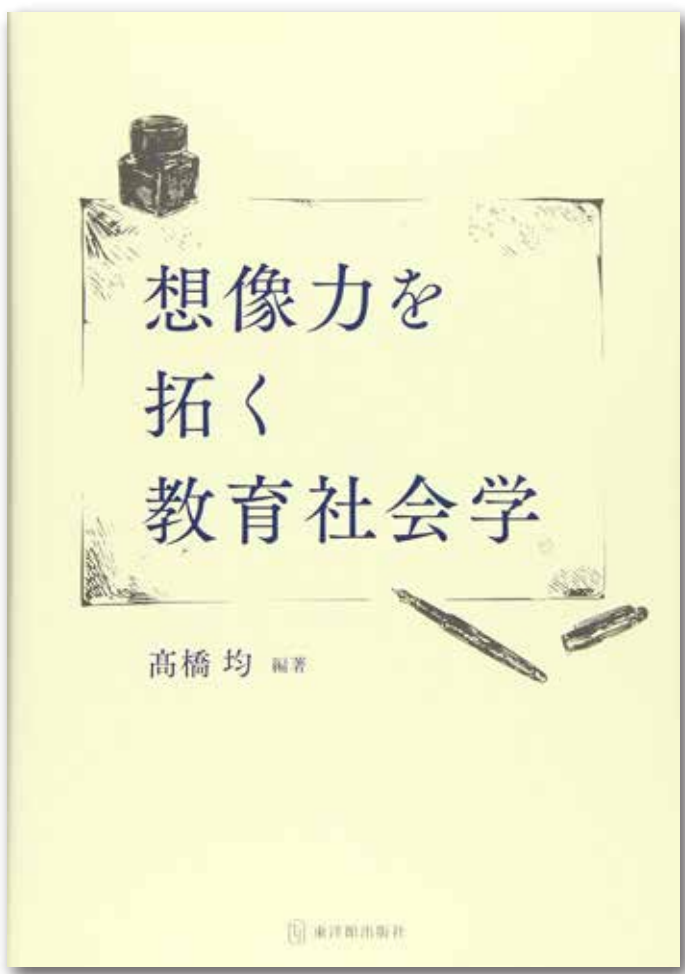
ジェンダーについて学ぶことは、「性別」についての知識を増やすだけではなく、自分とは感じ方や考え方が異なる「他者」の存在を尊重し、共生する方策について自ら考えるきっかけになります。授業では、ひとつの「正解」にたどり着くことではなく、身近な他者の存在に気づくことができるよう、ディスカッションを通して異なる意見に触れる機会を大切にしています。他の人と「同じ」でなくていいのです。私たちはすでに多様なはずです。

■ プロフィール

東京成徳大学子ども学部教授。早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士（教育学）。

【主な著書】

- 高橋均編著 2019『想像力を拓く教育社会学』東洋館（分担執筆）
坂越正樹・湯川秀樹・湯川嘉津美・神長美津子編著 2020『教育原理』光生館（分担執筆）
小玉亮子編著 2020『幼児教育』ミネルヴァ書房（分担執筆）



科目名：「英語で学ぶ社会・人文学講義 B」

※他学部・他学科には開講されていないので注意してください

■ 講義概要

映画で学ぶジェンダーと英語：

14本のイギリス映画を通して、ジェンダーに関する諸問題（スポーツ、法、セクシュアリティ等）と文化について学習し、英語プレゼンテーションを行うことで英語力を養成します。

取り上げる映画

007 / *Lawrence of Arabia* / *Another Country* / *My fair lady* / *My beautiful laundrette*
The cook, the thef, his wife and her lover / *Four weddings and a funeral*
Secrets and lies / *Shakespeare in love* / *Billy Elliot* / *Bridget Jones's diary*
Neverland / *Pride and prejudice* / *Miss Potter*

■ 達成目標

英語で映画を視聴し、英語プレゼンテーションを行うことで、英語リスニング・スピーキング力の向上をめざします。

ジェンダーに関する諸問題及びイギリス文化について理解を深めます。

担当者：佐竹 由帆（さたけ よしほ）

この授業では、イギリスを舞台にした映画を通してジェンダーにまつわる観念や社会構造について考えます。例えば *My Fair Lady* では、言語と階級が女性のアイデンティティ形成にどのように関わるかを、*Billy Elliot* では、「男らしさ」の規範や、個人が社会のジェンダー規範を超えて自己表現をする際の困難や喜びについて考察します。ジェンダーについて学ぶ意義は、自分自身や周囲の人々が抱える課題に対してより深い理解を持ち、固定観念に縛られない視野を養うことにあります。この授業を通して、みなさんが映画という表現を楽しみつつ、ジェンダーに関する感性を磨き、多様な視点を持てるようになることを願っています。

■ プロフィール

経済学部教授、博士（学術）。英米文学を専攻後、英語教育・コーパス言語学の研究に進む。現在の専門は、コーパスを参照する言語学習のアプローチであるデータ駆動型学習。2024年英語コーパス学会第50回研究大会で「ジェンダーと英語教育」のシンポジウムを企画し、「英語指導（DDL）とジェンダー」のテーマで登壇した。



科目名：「ジェンダーと人権／人権法特論 E」

■ 講義概要

この講義のテーマは「ジェンダーと人権」です。ジェンダーという概念は多義的です。まず、ジェンダーのもつ意味を確認した上で、国際法を含む国内外のジェンダー平等に関する法政策について学びます。ジェンダー平等の実現は 1979 年に採択された女性差別撤廃条約に端を発する国際社会の共通目標のひとつです。性／性別だけを理由とする不当に区別や性／性別ごとにあらわれる不均衡な影響は、ジェンダー平等の実現を阻害するものとして、改善が求められてきました。これには法律や政策のみならず、社会における慣習や慣行も含まれます。国家はもとより、企業や個人も、その責任の一翼を担っています。

講義は担当教員によるレクチャーのほかにも、受講生によるグループディスカッションやプレゼンテーションを交えながら、基礎知識を確実なものにするとともに、政治・職場・学校・家庭で人々が経験する事例を通して、ジェンダーに敏感な人権保障のあり方を考えます。

なお、講義でとりあげるべき時事問題の発生や社会情勢の変化による授業形態の変更等により、授業計画記載事項には大幅な変更が生じる可能性があります。ご了承の上、履修してください。

■ 達成目標

- 1. ジェンダーという概念のもつ多義性、および、ジェンダーと人権／法との関係を理解する。
- 2. グローバルな視点からジェンダー平等の実現に向けて取り組むべき課題を発見する。
- 3. ジェンダーに敏感な視点から現行の法政策を含めた社会制度のあり方を問い直す。

担当者：谷口 洋幸（たにぐち ひろゆき）

性やジェンダーにもとづく差別の撤廃に向けて、世界ではさまざまな取り組みが進められています。その大きな推進力のひとつとなっているのが 1979 年にできた女性差別撤廃条約です。この条約には各国の履行状況を監視する委員会がもうけられ、40 年以上の歴史の中で取り上げる事例やテーマ、対象も飛躍的に増えてきました。この授業では、女性差別撤廃条約を軸にしながら、日本や世界のジェンダーと人権をめぐる課題について考えます。性やジェンダーによる生きづらさを感じている人はもちろんのこと、自分には関係ない、あるいは、いまの時代には関係ない話だと感じている人も、新しい気づきが得られることと思います。ぜひ気軽に受講してみてください。

■ プロフィール

法学部教授、博士（法学）。学生時代から国際女性の地位協会のメンバーとして、女性差別撤廃委員会や国連女性の地位委員会の活動に参加。日本学術会議連携会員。ジェンダー法学会、日本 GI（性別不合）学会で理事を務める。



国際女性の地位協会編
『コンメンタル女性差別撤廃条約』
(尚学社・2010) (分担執筆)



国際女性の地位協会編
『男女平等はどこまで進んだか；
女性差別撤廃条約から考える』
(岩波書店・2018) (分担執筆)



第 61 回国連女性の地位委員会（2017）に国連ニューヨーク本部のロビーで展示された「HERSTORY」写真展

科目名：「性的マイノリティと人権／人権法特論 G」

■ 講義概要

この講義のテーマは「LGBTQ と人権」です。LGBTQ（性的マイノリティ）／性の多様性に関する概念を理解した上で、国際法と含む国内外の関連する法政策について学びます。世界では同性どうして結婚して家庭を築いたり、自らの望む性別で平穏に生活でき国や地域がある一方で、同性を好きになることが死刑を含む刑罰の対象となったり、性別があいまいなだけで暴力や殺害の危険にさらされる国や地域があります。2013 年に国連は「自由と平等キャンペーン」を立ち上げ、性的マイノリティの人権保障に向けた取り組みを開始しています。

講義は担当教員によるレクチャーのほかにも、受講生によるグループディスカッションやプレゼンテーションを交えながら、基礎知識を確実なものにするとともに、LGBTQ に関連する事例を通して、セクシュアリティに敏感な人権保障のあり方を考えます。

なお、講義でとりあげるべき時事問題の発生や社会情勢の変化による授業形態の変更等により、授業計画記載事項には大幅な変更が生じる可能性があります。ご了承の上、履修してください。

■ 達成目標

- 1. 性の多様性にかかわる概念を体系的に理解し、場面に応じて、的確に説明する。
- 2. グローバルな視点から LGBTQ と人権保障に向けて取り組むべき課題を発見する。
- 3. セクシュアリティに敏感な視点から現行の法政策を含めた社会制度のあり方を問い直す。

担当者：谷口 洋幸（たにぐち ひろゆき）

2015 年に渋谷区が同性カップルにパートナーシップ証明を発行しはじめて以後、日本でも LGBTQ に関する社会の認知度は飛躍的に高まってきました。一方、日本では婚姻はあいかわらず男女間に限られていて、戸籍上の性別を変更するためには世界一厳しい条件をクリアしなければならない状況も続いています。この授業では、LGBTQ に関する日本の法政策や判例の歴史を紐解きながら、人権という言葉のもつ意味を考えます。LGBTQ と人権について詳しく知りたい人だけでなく、自分は LGBTQ に理解がある、差別意識なんてもっていないと思っている（思い込んでいる）人にも、ぜひ受講していただきたい科目です。

■ プロフィール

法学部教授、博士（法学）。1990 年代後半から LGBTQ と法律問題に関する研究会を主催し、2011 年に『性的マイノリティ判例解説』を出版。日本学術会議連携会員。ジェンダー法学会、日本 GI（性別不合）学会で理事を務める。



谷口洋幸・齊藤笑美子・大島梨沙編著『性的マイノリティ判例解説』（信山社・2011）



谷口洋幸編『LGBTをめぐる法と社会』（日本加除出版・2019）



2015 年に韓国で開催された韓国・台湾・日本の LGBTQ 法政策に関する比較シンポジウムの登壇者（右から 3 人目が科目担当者）

科目名：「ヒューマンライツ特論 B」

■ 講義概要

この講義のテーマは「LGBTQ と人権」です。LGBTQ（性的マイノリティ）／性の多様性に関する概念を理解した上で、国際法と含む国内外の関連する法政策について学びます。世界では同性同士で結婚して家庭を築いたり、自らの望む性別で平穏に生活でき国や地域がある一方で、同性を好きになることが死刑を含む刑罰の対象となったり、性別があいまいなだけで暴力や殺害の危険にさらされる国や地域があります。2013 年に国連は「自由と平等キャンペーン」を立ち上げ、LGBTQ に関する人権保障に向けた取り組みを開始しています。

講義は受講生によるプレゼンテーションおよびディスカッションが中心となります。基礎知識を確実なものにするとともに、LGBTQ に関連する事例を通して、ジェンダーやセクシュアリティに敏感な人権保障のあり方を考えます。

なお、講義でとりあげるべき時事問題の発生や社会情勢の変化による授業形態の変更等により、授業計画記載事項には大幅な変更が生じる可能性があります。ご了承の上、履修してください。

■ 達成目標

- 1. 性の多様性にかかわる概念を体系的に理解し、場面に応じて、的確に説明する。
- 2. グローバルな視点から LGBTQ と人権保障に向けて取り組むべき課題を発見する。
- 3. セクシュアリティに敏感な視点から現行の法政策を含めた社会制度のあり方を問い直す。

担当者：谷口 洋幸（たにぐち ひろゆき）

この科目では別途開講されている「性的マイノリティと人権／人権法特論 G」の内容を掘り下げていきます。ただし、科目担当者による講義はほとんどありません。受講生によるプレゼンテーションやディスカッションを中心に進める形式です。このため授業というよりはゼミに近い雰囲気となります。もちろん、「性的マイノリティと人権／人権法特論 G」を履修していない方も受講可能です。同性婚や性別記載の変更、差別禁止法制のあり方など、最新の裁判例や関連法令の制定や改廃などをもとに、いろいろな視点から、主体的な学びを経験できる科目です。

■ プロフィール

法学部教授、博士（法学）。2022 年に出版した『性的マイノリティと国際人権法』で第 34 回尾中郁夫家族法学術奨励賞受賞。日本学術会議連携会員。ジェンダー法学会、日本 GI（性別不合）学会、NPO 法人東京レインボープライドで理事を務める。



谷口洋幸
『性的マイノリティと国際人権法：ヨーロッパ人権条約の判例から考える』
（日本加除出版・2022）



ジェンダー法政策研究所編
『同性婚のこれから：「婚姻の自由・平等」のために法と政治ができること』
（花伝社・2024）



2023 年 4 月 23 日に開催された東京レインボープライドの「プライドパレード」。約 10,000 人が渋谷駅周辺を行進。
（先頭バナーを持つ左から 1 人目が科目担当者）

科目名：「ジェンダーの社会学」（英語講義） ※他学部には開講されていないので注意してください

■ 講義概要

Gender is one of the fundamental factors in identity formation and perception of others. Gendered identities and behaviors are not innate characteristics but are constructed according to the norms of different societies and cultures. This course critically explores concepts and theories of gender and sexuality in order to understand how gender norms, roles, and practices are shaped through social structures, institutions, and power relations. In this course, students also challenge many taken-for-granted assumptions about sex and gender, using variety of examples from Japan and other societies.

■ 達成目標

By the end of this course, students should be able to

- explain how gender is constructed and reinforced through the imbrication of socio-cultural factors including race, class, ethnicity, religion, etc.
- link sociological theories and concepts about gender and sexuality to students' own experiences in everyday lives.

担当者：菅野 美佐子（かんの みさこ）

ジェンダーは私たちの社会生活の中のいたるところに無意識のうちに入り込んでいます。ジェンダーを学ぶことは、自分は女か男か、なぜそう思うのか、なぜそのように区分されているのか、そしてその区分にはどのようなパワーやヒエラルキーが潜んでいるのかなどを今一度問い直すことであり、自らが属する社会の構成・構造について深く言及することにもつながります。学生の皆さんには、ジェンダーの学びを通じて、ジェンダーに限らず、人種、民族、階級など社会に内在する諸種の差異や多様性にも気づき、理解し、受容する柔軟なマインドを育んでほしいと思います。

■ プロフィール

地球社会共生学部・助教。専門は文化人類学、インド地域研究。主な著書に、『インド・ジェンダー研究ハンドブック』東京外国語大学出版会、2018年（共著）、『月経の人類学—女子生徒の「生理」と開発支援』世界思想社、2022年（共著）などがある。



「ジェンダーの社会学」授業風景

科目名：「女性社会活動論」

■ 講義概要

これまで女性達は社会に対してどのような思想と行動を示してきたのか、現在に至るまでのその歩みを理解し、今後の展望を探ります。

テキストなど様々な教材の示す具体的事例を通して女性をめぐる現状と課題を理解し、活発なディスカッションによってそれぞれの問題意識を明確にしていきます。様々な角度から考察し、各自の調査対象や研究目標を決定し、議論を重ねて検証を深め、その成果を口頭発表及びレポートにまとめます。

■ 達成目標

- 1 現在に至るまでの女性達の思想と行動、社会に対する活動などの諸相を理解すること。
- 2 現代女性をめぐる諸問題について複眼的に考察すること。
- 3 各自のテーマを発見し、調査・分析した成果を発表すること。

担当者：小林 瑞乃（こばやし みずの）

人生をよりよく豊かに生きるために主体的に学ぼうとする意欲ある姿勢を求めます。この授業では抽象的な概念の講義ではなく具体的な問題に向き合って、現代社会の諸問題を考察します。女性解放運動、性と生殖、いのち、身体と言葉、女性学、フェミニズムとジェンダーの来歴などを学び、様々なシステム化した我々を取り巻く関係を考え、視野を広げて現代日本の諸相を把握し、答えのない問いに対峙することで自身の見解を打ち立てていく挑戦をして欲しいと願っています。自分自身と真摯に向き合って授業の時間を大切にしてください。

■ プロフィール

専門分野：現代社会論、現代史（社会史、思想史、女性史）、ジェンダー論

現在の研究としては、変動する時代状況の中で自身の精神的基軸を打ち立て、前人未到の境地を切り開いて人生を存分に生き抜いた思想家や文筆家に光を当て、人間と社会を考察した思想と行動を掘り起こし、その生き方と言説の意義を紹介しています。



科目名：「女性と社会運動」

■ 講義概要

この科目では、近現代日本における女性の社会運動を振り返ることをとおして、人々が連帯・協働して問題解決に取り組む「運動」の意義について考察する。長らく社会的な行動や発言を制約されてきた女性たちによる運動であればこそ、そこには社会変革の難しさと活路の両方の示唆が含まれていると期待できる。先ず、社会運動の意味や個人と社会の関係について検討したうえで、近代日本建設期（明治～昭和初期）における先駆的な女性運動家の足跡を振り返る。その後、現代社会の特質である「消費社会」状況に即して、「運動」の可能性と課題について探ってゆく。

■ 達成目標

- ①「女性の社会運動」の発展過程に関する知識を深める
- ②女性が社会的に行動することの意義について理解する

担当者：永井 健夫（ながい かつお）

「社会の一員」という言い方があります。人間は何らかの社会集団に属しながら生きる社会的な存在です。その集団に属する、つまり「社会の一員」である以上、そこで求められるルールやマナーを守らなければならないし、その社会の存立のためにいろいろな義務を果たすことも求められます。しかし、「社会」の求めることに応ずるだけが「社会の一員」の役割ではなく、「社会」に問題や欠陥があれば声を挙げてそれを指摘し、改める努力を試みることも「一員」としての責任であり、権利でもあります。

何百年も前の話ではなく、ほんの 100 年にも満たない前の日本では、この責任と権利は国民全体が制限されており、特に女性は、選挙権や財産権が認められず、挙げるべき声そのものが奪われていました。それでも、社会の担い手としての責任を果たし権利を行使しようとした女性たちがいたし、その流れを受け継ぐ人たちもいます。

授業で扱えるのは一部にすぎませんが、その女性たちの軌跡を振り返ることをとおして、我々が社会に関わる方法について考えてゆければと思います。

■ プロフィール

コミュニティ人間科学部の教授です（2021 年度に就任）。主には、知の在り方の変容可能性について説明する成人学習理論の研究に取り組んでいます。最近は、ちょっとだけ消費者教育行政のお手伝いもしています。「昭和」のド真ん中で育ったオジサンなので、心の奥底には性差別的な細胞が潜んでいるはずです。そんな自分を見つめ直しながら「ジェンダー関連科目」の授業に取り組んでいます。

科目名：「女性と政治参加」

■ 講義概要

この科目は、女性の政治参加という問題を、時間的にも空間的にも射程を広げて捉え、その道のりや実態と理論的な課題について認識することを目的とします。まず世界各国における女性の政治参加の状況を比較し、日本の位置づけを確認した上で、特にイギリス近現代史に焦点を当てながら、女性の政治参加のあり方について、現代日本に生きる私たちに新たな気づきを与えるさまざまな歴史的事例を学びます。

■ 達成目標

- 現代日本の「女性と政治参加」をめぐる問題を、国際的および歴史的視点から相対化できるようになる。
- ジェンダーの視点から、政治参加のあり方の多層性・多元性について理解する。

担当者：梅垣 千尋（うめがき ちひろ）

ここ数年、メディアでよく取り上げられているように、日本はとくに政治の世界で男女格差が著しい国であるといわれています。世界経済フォーラムが公表している「ジェンダーギャップ指数」のランキングでは、政治分野で 146 カ国中 113 位（2024 年 6 月時点）。なぜこれほどまでに低くなるのか、当然疑問が湧いてくるでしょうが、この授業では現代の日本からいったん離れて、イギリスにおける女性の政治参加の歴史を辿ることで、この謎について深く考えるための〈比較の視座〉を示したいと思います。

■ プロフィール

東京生まれ。大学時代に「フェミニズム」の問題に関心をもち、その後、歴史（思想史）の分野でこの問題を考えようと、女性史・ジェンダー史を学ぶ。2021 年 4 月から青山学院大学コミュニティ人間科学部教授。



The Women's Library Reading Room（ロンドン大学 LSE）

科目名：「女性と記録・表現」

■ 講義概要

人口の半数を占めながら従来〈周縁〉化されてきたジェンダーの、表現の歴史、現在、未来について熟考する。ここでは、文学の歴史上それがどのようにつくられてきたのか、その構造、仕組み、政治的無意識などについて、これまで身近にわれわれが接してきた近代の文化内容（文学、思想、映像 etc.）から、具体的に幅広く考察してゆく。講義に加え、受講者の積極的な見解表明を求める。

■ 達成目標

女性ないし女性ジェンダー化された存在の具体的な歴史、場面、表現に精通し、問題を通俗化したり個々の心理に矮小化したりせず、広くその構造的、社会的なありかたにおいて、把握できるようにする。さらにはそのあたらしい問題認識において、未来への具体的な展望、脱・支配的な人間文化のあり方を模索できるようにする。

担当者：辻 吉祥（つじ よしひろ）

ひとが「人間」としておこなう営為に、性による2分割は――極めて粗雑なこの枠組みが――いったいなんの役に立つのだろう……こんな分類、いまどき……遅れすぎている、この国。。。ジェンダー関連科目、なんて提示しないといけないこの社会水準自体、みっともなくてひとの行き交う街路にも出歩く気がしない。わたしたちは未知の、あたらしい未来へのエキゾティズムをうしなってしまったのだ……社会に求められているのは、〈あたらしいニンゲン〉、ただそのひとだけなのに――。〈～らしさ〉を超えて、〈らしくない未知〉を求めるひとに、かつて見たこともない教室のひとときを。

■ プロフィール

ごくふつうのひとです。最近、大阪府育英会の奨学金を返し終えました、ふう～。そうです、あの政治的にひどいことが露骨にはじめられているオオサカで育ちました。
現在、青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。

科目名：「コミュニティ人間科学特論 E」

■ 講義概要

【講義テーマ：近現代イギリス女性史】

この特論は、イギリスの近現代史を対象として、女性がいかに生活の場や社会のなかでみずからの役割を見出し、生き方の可能性の幅を広げていったのかを理解することを目標とします。まず、歴史叙述において相対的に女性の存在が明らかにされにくいことを踏まえた上で、ジェンダーという切り口から歴史を捉えることの意義と、現代の女性の生き方を歴史的に広い視野から相対化することの意義を確認します。その上で、フェミニズム思想の成立、近代家族の形成、教育制度の整備、女性の労働、戦争と女性といったトピックスを通して、近現代イギリス女性史にたいする理解を深めます。

■ 達成目標

- ジェンダーという切り口から近現代イギリスの歴史をとらえ直す意義を理解する。
- 近代から現代にかけて、イギリスの女性たちがどのような生き方を求められ、どのようにして活動の幅を広げていったのかを具体的に理解する。
- 発表や自由なディスカッションを通じて、アカデミックな思考力を鍛えるとともに豊かなコミュニケーションの力を身につける。

担当者：梅垣 千尋（うめがき ちひろ）

私たちは現代の自分の生き方や価値観を「当たり前」のものだと考えがちですが、100 年前、あるいは 200 年前の女性たちがどのように暮らしていたのかを具体的に学んでいくと、いろいろな発見があり、自分の常識が良い意味で崩されて、視野が広がります。同じことを学んでいても、人によって「こんなに大変だったんだ」「意外と楽しそう」「今の自分と結構重なる」など、受け取り方はさまざまかもしれません。そうした違いも含めて、学生同士で自由に意見を交わせるような授業にしたいと思っています。

■ プロフィール

東京生まれ。大学時代に「フェミニズム」の問題に関心をもち、その後、歴史（思想史）の分野でこの問題を考えようと、女性史・ジェンダー史を学ぶ。2021 年 4 月から青山学院大学コミュニティ人間科学部教授。



右：梅垣千尋『女性の権利を擁護する：メアリ・ウルストンクラフトの挑戦』（白澤社・2011 年）

科目名：「コミュニティ人間科学特論 F」

■ 講義概要

【近現代アメリカ女性史・ジェンダー史】

セクシュアリティは極めて私的な事柄に見えるが、アメリカ史をとおしてセクシュアリティは社会統制の対象であり続け、多様なアクターが独自の目的で人々の性を管理しようとした。また、性的行動に付与される意味も時代によって変化し、社会浄化運動・性革命・ゲイ解放運動など既存の性規範への大規模な挑戦も起こった。本講義は、セクシュアリティに注目することで、アメリカ社会の特質—宗教国家、入植者植民地主義、人種主義、軍事国家、農業国など—を明らかにし、日本社会との比較を試みる。また、セクシュアリティが近代的個人の確立にどのような役割を果たしたのか、性役割・人種主義・資本主義体制の維持にセクシュアリティがどのように関わってきたのかを考察する。

■ 達成目標

- ・ジェンダー史やセクシュアリティの歴史が、学問領域として発達した背景を理解する
- ・性をめぐる考え方が、歴史的状況においてどのように変化してきたのかを理解する
- ・人種・階級・ジェンダーのヒエラルキーを維持する上で、セクシュアリティの統制がどのような役割を果たしてきたのかを理解する。

担当者：後藤 千織（ごとう ちおり）

アメリカの歴史を事例に、セクシュアリティに関する「当たり前」を、立ち止まって問い直すことが本講義の目的です。例えば、今日では男女の身体的差異を強調する見方に触れることが多いですが、歴史をとおして常にそのような性差認識が支配的だったわけではありません。性別・生殖・関係性・性感染症・性暴力に関係する制度の現状を確認し、アメリカの事例をもとに、どのようなせめぎ合いから現状に至っているのか、課題は何なのかを考えます。

■ プロフィール

青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。
専門はアメリカ社会史、ジェンダー史。19世紀～20世紀初頭のアメリカ合衆国におけるセクシュアリティ統制の特徴を、人種・エスニシティ・ジェンダー・階級を異にする、様々な人々の視点から考える研究をしています。

科目名：「コミュニティ人間科学特論 G」

■ 講義概要

本特論は、現代社会に生きる女性が生活圏において直面している諸課題を、近現代日本の思想と文学をとおして理解することを目的とする。まず、「生活圏」（生活空間・生活世界）の意味について確認し、次いで、文学的創作活動（書くこと）に潜在する課題認識や問題提起の契機について検討する。そのうえで、変動する 20 世紀に活躍した女性作家たちの軌跡と作品を振り返ることをとおして、人の生き方や社会との関わり方などについて考える。

■ 達成目標

- ①近現代日本の女性作家の人物像と作品に関する知識を深める
- ②文章表現活動に備わっている可能性について理解する
- ③書くことによる表現力を高める

担当者：永井 健夫（ながい かつお）

客観的な事実か虚構の絵空事か、いずれにせよ、或る事をめぐる経験や思いを言葉に連ねてゆくこと、つまり「物語ること」が結晶化して作品となる。それは、個人的なものであった経験や思いに、多少なりとも、普遍性が培われてゆくプロセスである。だからこそ、赤の他人が創った作品であっても、強く共鳴する場合がある。つまり、作品を読むという行為は、描かれた世界の中から共鳴できる要素を探し出す作業でもある。

ところで、「女流作家」という表現にも潜むイデオロギーにも通ずるものだが、近現代の日本では、社会の維持・運営の基盤を「イエ」に求め、その「イエ」の再生産機能を担うことを女性の基本的役割として期待する考え方があったし、今もなお、ある。これは女性が「イエ」の外で（つまり、社会で）活躍することを忌み嫌う思想であり、男性がプレーヤーであるはずの場で女性が同じことをしようとする、その役名には「女流」という接頭辞が付けられるのである。

授業では（特に後半になってから）、そうした「女流作家」たちが書き綴ったものを読み解きながら、何か共鳴できるもの、そして人間や社会について考えるヒントを探ってゆく。

■ プロフィール

コミュニティ人間科学部の教授です（2021 年度に就任）。主には、知の在り方の変容可能性について説明する成人学習理論の研究に取り組んでいます。最近では、ちょっとだけ消費者教育行政のお手伝いもしています。「昭和」のド真ん中で育ったオジサンなので、心の奥底には性差別的な細胞が潜んでいるはずですが。そんな自分を見つめ直しながら「ジェンダー関連科目」の授業に取り組んでいます。

科目名：「コミュニティ人間科学特論 P」

■ 講義概要

～ライフ・ヒストリー・ジェンダー探求～

自分自身や他者をみつめ、恋愛や婚活といった身近なテーマをはじめ、男女格差、多様な性と家族、差別と偏見、戦争と平和、命の問題など、様々な観点から現代社会の諸問題とその背景を把握する授業です。多様なライフヒストリーの探究を通して、個を起点として私達を取り巻く社会の抱える課題を考察し、レポートにまとめます。

■ 達成目標

- 1 身近な生活の中に存在している諸問題を自覚的に捉え直す
- 2 多様なライフヒストリーを探究する
- 3 社会の諸状況を理解し、現代を構造的に把握する
- 4 様々な観点から自分の課題を発見して考察を深め、自身の生き方について大きな見取り図を描く

担当者：小林 瑞乃（こばやし みずの）

人が生きるところにライフヒストリーがあり、人類の壮大なライフヒストリーと、一人ひとりの固有な在り方を映し出すライフヒストリーとが交差する〈現在〉にあって、人との繋がりの中で自分の立ち位置をみつめ、現代社会の固有の課題や未来への希望、あるべき社会像を思い描いてみる。また、自分らしく生きるとはどういうことなのか、社会で生きる意味とは何かといった根源的な問いを日常の視点から考察する。そんな学問横断的な作業を通して視野を広げ、思考を鍛えていきます。

大げさに聞こえるかもしれませんが、授業への取り組みは自分自身と対峙すること、授業の時間は生き方を構築する時間として大切にしてください。

■ プロフィール

専門分野：現代社会論、現代史（社会史、思想史、女性史）、ジェンダー論

現在の研究としては、変動する時代状況の中で自身の精神的基軸を打ち立て、前人未到の境地を切り開いて人生を存分に生き抜いた思想家や文筆家に光を当て、人間と社会を考察した思想と行動を掘り起こし、その生き方と言説の意義を紹介しています。



科目名：「**歴史と人間**（個別科目）」

■ 講義概要

ライフ × ヒストリー × ジェンダー探求

身近な生活の中に存在している諸問題を自覚的に捉え直すための授業です。男女格差をはじめとする現代日本の現状や人々の多様なありようを広い視野でとらえ、歴史的な経緯を踏まえてジェンダーをめぐる諸状況を理解していきます。様々な観点からの考察によって自分の課題を発見し、自身の生き方の軸を確かにするための知を打ち立てることを目指します。

■ 達成目標

- 1 身近な生活の中の問題や課題を発見すること
- 2 多面的な観点から現代社会の諸問題とその歴史的背景を把握すること
- 3 自分自身にとっての課題を発見し、考察を深めること

担当者： **小林 瑞乃**（こばやし みずの）

この授業では抽象的な概念の講義ではなく具体的な事例に向き合って、現代社会の諸問題を考察します。日本と世界、貧困とジェンダー格差、恋愛と婚活、心と身体、生と性、命といった私たちにとって大切なテーマと向き合い、女性の置かれた現状と歴史を踏まえてジェンダーをめぐる諸状況を理解していきます。

毎回の課題に真摯に向き合い、答えのない問いに対峙することで自身の見解を打ち立てるという挑戦を重ねて、自分の内面に確かな手ごたえを感じていくようにと願っています。

■ プロフィール

専門分野：現代社会論、現代史（社会史、思想史、女性史）、ジェンダー論

現在の研究としては、変動する時代状況の中で自身の精神的基軸を打ち立て、前人未到の境地を切り開いて人生を存分に生き抜いた思想家や文筆家に光を当て、人間と社会を考察した思想と行動を掘り起こし、その生き方と言説の意義を紹介しています。



科目名：「自己理解（個別科目）」

■ 講義概要

子どもの本とジェンダーについて考えます。
子どもの本（絵本や児童文学）の中にひそむジェンダーに焦点を当て問題提起していく部分と、ジェンダー規範からの解放や性の多様性をテーマとした子どもの本を紹介する部分と、主にこの二本の柱で多くの作品を紹介しながら進めていきます。

■ 達成目標

- *子どもの本の批判的な読みにジェンダー視点が必要なことを理解する
- *ジェンダーに焦点を当て、児童文学や絵本を読み込めるようになる
- *古典的な作品やロングセラーの作品をジェンダー視点で再評価できるようになる
- *自身のジェンダー感覚や“性”に対する感覚を問い直せるようになる

担当者：西山 利佳（にしやま りか）

私は「女性学」や「フェミニズム」、「ジェンダー論」などを専門的に学んだことはありません。大学3年の時に児童文学批評のおもしろさに取りつかれて以来40年、「批評」という立場で子どもの本に関わってきました。私が面白がっている児童文学批評は、例えば「純真無垢」といった「子どもらしさ」の思い込みやステレオタイプの再生産に異議を唱え、水を差す仕事です。それは、「女らしさ」や「男らしさ」の呪いを指摘し、抵抗する作業と地続きです。「女子ども」という言葉もある文化状況の中では、なおのこと。無用なジェンダーの刷り込みを次世代に再生産させないためにも、絵本や、児童書をジェンダー観点でいっしょに読み直してみませんか？

■ プロフィール

2016年度～2021年度、青山学院女子短期大学子ども学科准教授。2022年度～青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。日本児童文学者協会常任理事、日本ペンクラブ「子どもの本」委員会副委員長、〈子どもの本・九条の会〉運営委員など。趣味は南米。同居動物は猫。



西山利佳『〈共感〉の現場検証』
（くろしお出版・2011）

■ 講義概要

さまざまな場所で経験を積んできたゲスト講師の講演を通して、いのちと社会をつなぐジェンダー視点を学ぶ。

■ 達成目標

- *「いのち」を脅かすものを社会的視野の中で考えることができるようになる。
- *近現代日本において、女性がどのように生き、働いてきたか、具体例を通して、より立体的に理解できるようになる。
- *世界の政治的・経済的状况についても把握できるようになる。
- *問題解決のためにできることを考えられるようになる。

■ 授業内容（予定）

- *放射線被曝から子どもを守る市民の活動を知る。 *カンボジア内戦のサバイバーの半生に出会う。
- *新聞記者の現場から伝えられる市民の声に出会う。 *里親支援の現場からいのちを考える。
- *メキシコのストリートチルドレン、フェミサイドの現場を知る。
- *トルコの女性の生活文化を通して、イスラムの多様性を知る。
- *杉並の女性たちが立ち上げた原水爆禁止運動を学ぶ。 *沖縄の基地問題の歴史と現状を学ぶ。
- *丸木位里・丸木俊「原爆の図」を中心に、社会問題と芸術の関係を考える。
- *戦時性暴力について、問題の所在を知り課題解決に必要なことを考える。
- *福島と広島をつなぐ活動に携わる作家のライフヒストリーを通して、いのち・女性・社会を考える。

担当者：西山 利佳（にしやま りか）

ドーラ・E・スクーンメーカー宣教師がアメリカから日本へ渡ってきたのは 1874 年。彼女が、青山学院の源流である女子小学校を開いたのは 23 歳になったばかりのころです。彼女の生涯をまとめた棚村恵子先生の講演を聞いたとき、はっとしました。アメリカが政教分離だったことで、宗教が家庭の領域・女性の領域となり、女性たちの自己実現の場としても教会活動が盛んに行われたとのこと。歴史的、文化的に「女性」が追いやられた先は「いのち」に近い場所だったかも知れません。「女性」の観点で「いのち」と「社会」を考え、つなぎ、「わたし」のもやもやを「わたしたち」の問題として言語化する……そんな野望を持つ科目です。

■ プロフィール

2016 年度～ 2021 年度、青山学院女子短期大学子ども学科准教授。2022 年度～青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。日本児童文学者協会常任理事、日本ペンクラブ「子どもの本」委員会副委員長、〈子どもの本・九条の会〉運営委員など。趣味は南米。同居動物は猫。



『わたしたちのアジア・太平洋戦争』（童心社・2004）（共編著）

科目名：「**現代社会の諸問題**（個別科目）（英語講義）」

■ 講義概要 Course description

Course theme: Gender and law

In this class, we will look at various issues relating to the rights of women and the rights of sexual minorities in Japan and other countries, focusing particularly on the role of law. Legal rules sometimes discriminate directly or indirectly against women and sexual minorities, while in other cases they serve as a force for liberation and transformation. We will examine this dual nature of law by looking at topics such as marriage and the family, gender identity, sexual and domestic violence, and participation in politics and the workforce, studying examples from both Japan and other countries and considering both domestic and international law. Students will learn that the social status of women and sexual minorities is not fixed or unchangeable, but has varied over time and from place to place throughout history, and that social movements in modern times have played a key role in lobbying for reform of oppressive laws and for the introduction of laws that can be used to challenge gender discrimination. The class will provide students with an opportunity to consider their beliefs about gender, and to think about how we can all help create a world in which everyone can achieve their full potential, free from gender discrimination and gender stereotypes.

■ 達成目標 Course objectives

By participating in this course, students will:

- a) learn the meaning of basic concepts such as sex (including the concept of intersex), gender (including the concepts of gender identity, gender expression and gender roles), and sexual orientation.
- b) gain a basic understanding of the kinds of discrimination that still exist against women and sexual minorities in Japan and other countries.
- c) gain a basic understanding of how laws have either reflected and reinforced such discrimination, or have been used to combat it.

担当者：**COOP, Stephanie Louise.**（クープ, S. L.）

ジェンダー差別に対処し、みんながより生きやすい社会をつくるために、法は基本的な手段の一つになります。私の出身国オーストラリアでは、オーストラリアの連邦法のもとで（ジェンダーに基づくものを含む）差別が禁止され、差別を受けた者は「オーストラリア人権委員会」という国内人権機関に申し立てることができます。委員会は申立人と差別が訴えられている者との間の調停プロセスを無料で提供し、これにより訴訟に至る前にジェンダー差別が救済されるケースが少なくありません。様々な地域の事例を視野に入れながら、皆さんと一緒にジェンダー平等を実現するための法の可能性を検討していければ幸いです。

■ プロフィール

オーストラリアのメルボルンで生まれ、1992 年来日。翻訳者・編集者・記者として働きながら人権 NGO で活動。2003 年、青山学院大学大学院法学研究科博士前期課程入学、2005 年修了。2005 年、同博士後期課程入学、2011 年修了（博士（法学））。

現在、青山学院大学法学部准教授。国際刑事法をジェンダーの観点から研究している。



オーストラリア人権委員会を訪問（2020 年 2 月）

科目名：「歴史と人間（総合科目）」

■ 講義概要

この授業では「歴史と人間」についてジェンダーの視点から考察する。
生物学的な性差とは異なる社会的・文化的・心理的に形成された男女の性差を示すジェンダー概念を軸に、わたしたちが性別を認識し文化として構築する方法や社会の中で果たしている機能などの諸問題を考察する。
本講義は専門の異なる複数の教員によりリレー式で行われ、「身体とジェンダー」「社会とジェンダー」「文化とジェンダー」の3つのセクションに分けて、ジェンダーという概念をめぐる歴史と人間の大まかな諸相を把握する。性別システムにまつわる歴史を知り、視野を広げ、専門領域を横断するような視座を獲得するために、資料や文学テキスト、映像等を題材に考察する。

■ 達成目標

ジェンダーとはどのような概念であり、どれほどの射程をもつのかを理解し、ジェンダー学（従来のフェミニズム、女性学、男性学、LGBT スタディーズを包括するもの）の視点を青学生としての「教養と技能」の基盤として理解し身につけながら、「歴史と人間」の状況と課題を複眼的に考察し自己の見解をもつこと。

担当者：輪島 達郎（わじま たつろう）

この授業では身体の「植民地化」による支配という視点でジェンダーの問題を考えます。植民地支配は欲望や権力を通じて身体のすみずみにまで及びます。もちろん、あなたの身体にも。それを自覚でき、そのカラクリを見抜くことができる修練を積んでいただきたい。

■ プロフィール

専門分野：琉球史・琉球芸能
人はどのように他の人や集団を「植民地化」するのか、それにたいして「植民地化」された人々はどのような抵抗をしてきたのか、ということを考えています。



担当者：小林 瑞乃（こばやし みずの）

ジェンダーを軸に現代社会の諸相を複眼的な観点から考察するとともにあるべき社会像を構想し、同時にまた、生きる意味や自分の在り方を考えるという根源的な問いと向き合って、自分の軸を確かなものにして欲しいと願っています。

■ プロフィール

専門分野：現代社会論、現代史（社会史・思想史・女性史）、ジェンダー論
制約の多かった時代状況の中で自らの生き方を貫き新たな社会への道を切り拓いた人々を研究対象にしています。



担当者：山田 美穂子（やまだ みほこ）

私の担当回では主にイギリスの小説とその映像化作品をご紹介します。100 ～ 200 年前の物語の主人公たちが発した「わたしは誰？」という問いが、あなたのジェンダーにつながっていきます。

■ プロフィール

専門分野：イギリス文学
19世紀末から 20世紀初頭のイギリス文化や社会背景と文学作品との関係を研究しています。



科目名：「聖書の中の女性たち（新約）」

■ 講義概要

キリスト教は女性の価値を軽んじて来ました。教会の長い伝統は、理想の女性像を慈愛に満ちた母、または処女というステレオタイプのイメージに作り上げて来ました。この理由には、古代の家父長制の指導者である男性が都合良く女性を支配するためというものがあります。聖書は、家父長制の時代に書かれ、キリスト教も長く家父長制という制度をひきずっています。この講義では、それでは今後、どのように聖書を理解できるのか。建設的にしかし批判的に聖書を理解していきます。逐語靈感説で聖書を解釈しません。聖書は多様な文書が古代イスラエルの長い歴史の中で集められたものであるため、学問的に批判可能なものとして解釈します。キリスト教の信仰のある部分も批判します。受け止めることができる準備をしておいてください。

■ 達成目標

聖書がジェンダー・バイアスのもとに書かれていることを理解し、フェミニスト聖書解釈について理解を深める。

担当者：福嶋 裕子（ふくしま ゆうこ）

フェミニスト聖書解釈の視点と方法で新約聖書を読んでいます。頭を柔らかくして、いろんな角度から聖書に登場する女の人たちをできるだけ立体的に理解できたらと願っています。

■ プロフィール

元青山学院大学理工学部教授・大学宗教主任。ハーバード大学神学部博士課程修了

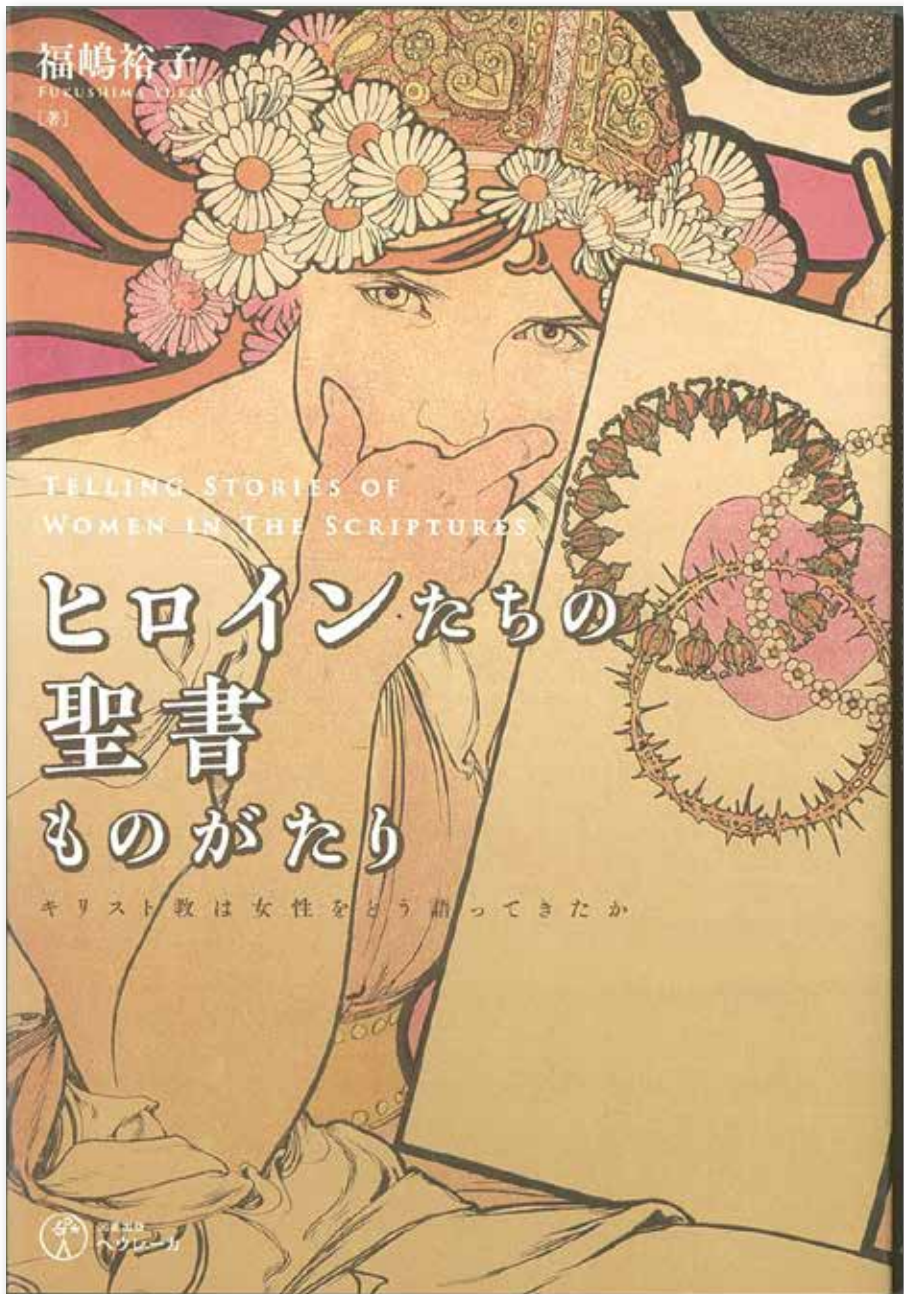
専門：新約聖書とキリスト教の諸起源

著書：『ヒロインたちの聖書ものがたり』（ヘウレーカ、2020）

翻訳：リタ・ナカシマ・ブロック、レベッカ・アン・パーカー 著

福嶋裕子、堀真理子 訳

『灰の箴言：暴力、贖罪における苦しみ、救済の探究』（松籟社、2025）



科目名：「聖書の中の女性たち（旧約）」

■ 講義概要

旧約聖書に登場する女性たちを女性の視点から理解する。
フェミニストの課題が、女性の権利拡張にあるのではなく、人間と社会を取り巻く経済・政治・文学などあらゆる分野で課題を持っていることを認識する。
逐語靈感説で聖書を解釈しません。聖書は多様な文書が古代イスラエルの長い歴史の中で集められたものであるため、学問的に批判可能なものとして解釈します。

■ 達成目標

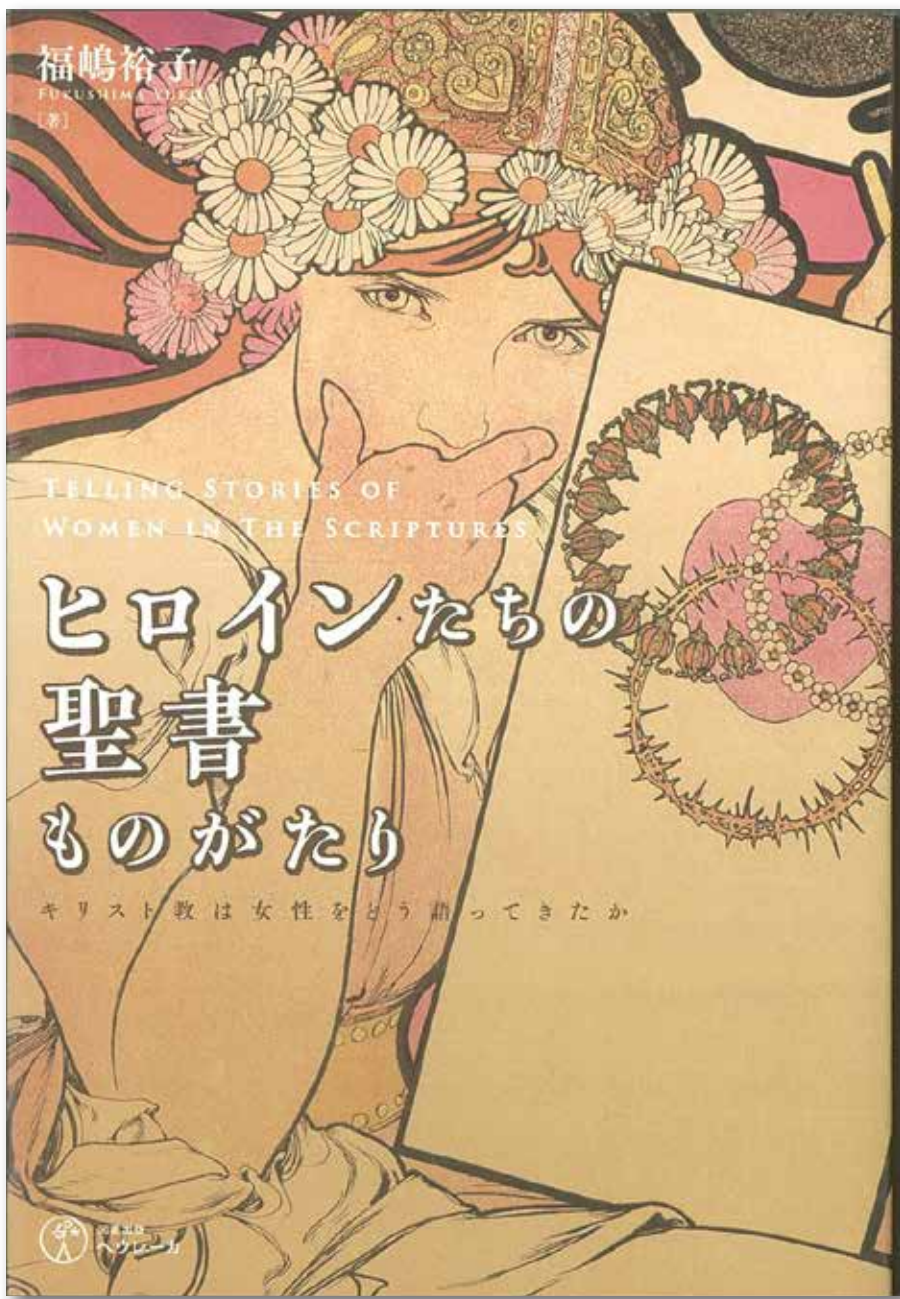
女性を差異化する考えに対して、様々な視点から疑問を投げかけ、聖書の歴史を女性の視点から理解する。

担当者：福嶋 裕子（ふくしま ゆうこ）

フフェミニスト聖書解釈に沿って、旧約聖書に登場するいろんなタイプの女の人たちを見ていきます。現代の常識とは異なる面白い発見があることを期待しています。

■ プロフィール

元青山学院大学理工学部教授・大学宗教主任。ハーバード大学神学部博士課程修了
専門：新約聖書とキリスト教の諸起源
著書：『ヒロインたちの聖書ものがたり』（ヘウレーカ、2020）
翻訳：リタ・ナカシマ・ブロック、レベッカ・アン・パーカー著
福嶋裕子、堀真理子訳
『灰の箴言：暴力、贖罪における苦しみ、救済の探究』（松籟社、2025）



科目名：「ジェンダーとフェミニズム A ／フェミニズム A」

■ 講義概要

【ジェンダー、フェミニズム入門——世界の流れ・日本の流れ】

フェミニズムとそのキー概念であるジェンダー、性別役割、セクシュアリティ（性現象）とその周辺概念および性の多様性、ジェンダー、フェミニズムの現代のトピックについて講じる。また、とかくイメージだけで語られがちな日本の男女について、諸領域での統計資料を用いて検討し、さらにフェミニズム、ジェンダー平等に関連した国連の活動の流れや、それにともなった日本政府の男女平等に向けての取組み（男女共同参画社会政策）・自治体の動きを概観していく。講義には映像資料を使用することがある。

■ 達成目標

「草食男子」が増え、レディースデーや女性専用車両は幅をきかし…男女平等は行き過ぎ、女性優遇だ、との声がある。その一方で非正規雇用の拡大は女性を中心に進み、日本の男女賃金格差は先進国中でも大きく、共働きの家庭でも家事など無償労働の多くを女性が担う。ジェンダー格差指数についての国際比較では日本の順位は著しく低く、2024 年、146 カ国中 118 位である。雇用される女性の半数近くは最初の妊娠・出産を機に退職している。性暴力のニュースも後を絶たない。日本は男女平等は実現していると思っていたのに、と驚く学生は少なくない。

女性差別の撤廃を目指すフェミニズム（女性解放思想・運動）は200年以上の歴史をもつが、現代にいたるフェミニズムが盛んになったのは、1960 年代後半からである。今や、性差別の撤廃はグローバルな課題として認識され、制度的な平等のみならず、「男は仕事、女は家庭」といった性別役割、意識、慣習などの変革が求められている。最近ではさらに性の多様性の報道も増え、そもそも性別とは何なのか、との議論も盛んである。女性の能力を社会に生かすことこそ日本再生のカギ、という意見も目立ってきた。

この講義では、現代日本社会の男女の状況を概観し、性差別の解消に向けての取組を学び、男女の平等や公正について理解する。また、ジェンダー概念や性の多様性について検討し、性差の社会的構築性についての洞察力を深める。さらにこれらの学びによって、ジェンダーの公正の視点を身に着け、自身の将来設計が性別に関わりなく、いっそう豊かに広がることを目標とする。

担当者：西山 千恵子（にしやま ちえこ）

この授業の名称は、以前は「フェミニズム A・B」でしたが、2019 年度から「ジェンダー」が付け加わりました。名称変更のさい私からは「フェミニズム」の言葉を残すことを提案しました。「フェミニズム」という言葉はものの見方、思想だけでなくジェンダー平等を実現するための実践や運動も意味するからです。ジェンダーについて考える糸口、課題は日常生活のいたるところに、そしてあなた自身の中にも散りばめられています。学生の皆さんにはジェンダー、フェミニズムについて知る、学ぶだけでなく、その学びを自身の人生をさらに充実したものにするために、そして公正な社会を実現していくために、生かしていつてほしいと思います。

■ プロフィール

千葉大学卒、お茶の水女子大学大学院修士課程修了。高校時代から女性史、フェミニズム関連の書籍に接し、大学院からは女性学、ジェンダー研究の道へ。共訳にアン・ファウスト - スターリング 著『セックス／ジェンダー ―性分化をとらえ直す―』世織書房 2018、共編著に『文科省／高校「妊活」教材の嘘』論創社 2017。

科目名：「ジェンダーとフェミニズム B / フェミニズム B」

■ 講義概要

【現代日本のフェミニズムおよびジェンダーをめぐる諸課題】

フェミニズム・ジェンダーをめぐる現代的・具体的な諸問題を取り上げて講じていく。これらの問題や課題について学びながら、適宜、討議の時間を設け理解を深める。講義には映像資料を使用することがある。

■ 達成目標

この講義はフェミニズムAの発展編と位置付ける。19 世紀半ば以降の第一波フェミニズムから1960 年代以降に再び興隆した第二波フェミニズムにいたるまで、フェミニズムは様々な立場、主張を展開してきた。この講義では、現代のフェミニズムが課題としている、女性の政治参加、性と生殖に関する健康と権利、ドメスティック・バイオレンス（親密な関係における暴力）など、現代社会で起きているトピックや、メディアにおける男女の表現、メディア・リテラシー等を取りあげ、身近な生活に潜在するジェンダーの問題に気づき、考察する力を養うことを目標とする。

担当者：西山 千恵子（にしやま ちえこ）

この授業の名称は、以前は「フェミニズム A・B」でしたが、2019 年度から「ジェンダー」が付け加わりました。名称変更のさい私からは「フェミニズム」の言葉を残すことを提案しました。「フェミニズム」という言葉はものの見方、思想だけでなくジェンダー平等を実現するための実践や運動も意味するからです。ジェンダーについて考える糸口、課題は日常生活のいたるところに、そしてあなた自身の中にも散りばめられています。学生の皆さんにはジェンダー、フェミニズムについて知る、学ぶだけでなく、その学びを自身の人生をさらに充実したものにするために、そして公正な社会を実現していくために、生かしていってほしいと思います。

■ プロフィール

千葉大学卒、お茶の水女子大学大学院修士課程修了。高校時代から女性史、フェミニズム関連の書籍に接し、大学院からは女性学、ジェンダー研究の道へ。共訳にアン・ファウスト - スターリング 著『セックス／ジェンダー ― 性分化をとらえ直す―』世織書房 2018、共編著に『文科省／高校「妊活」教材の嘘』論創社 2017。

